

能阿弥傳書

天正十五年

一 備後國 一 葉 清長と云ふ

助四

在希恒一み字作に

正家 尾道 正家

尾道 正家一葉み打も立

貞彦 尾道

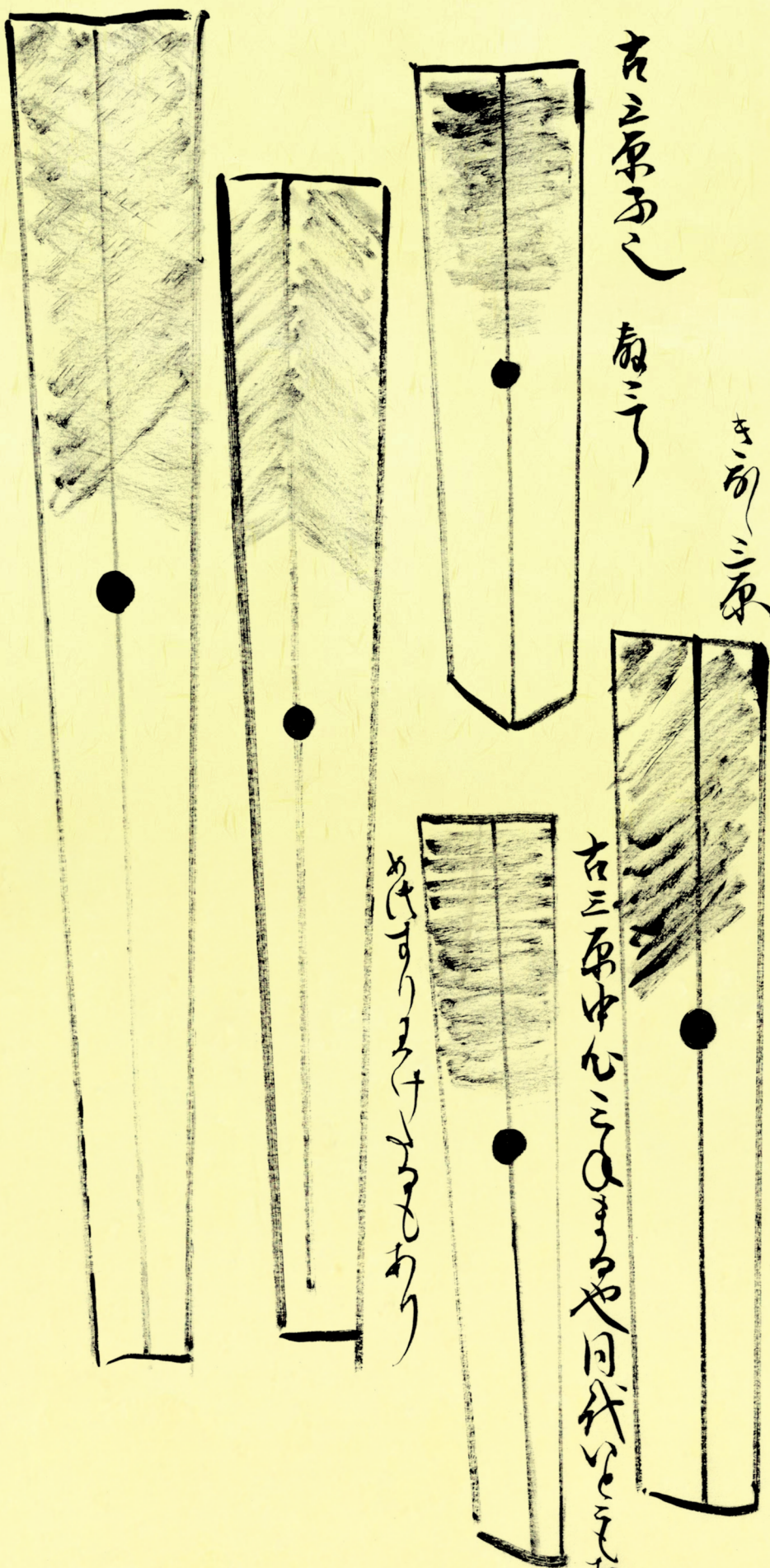
一 三原 大カ刀と銘く子卯丑右三原又子卯子右三原
又四 三原と又四 國も云ありて一 三原と
望四 六 立 三原と銘く子卯丑右三原又子卯子右三原
近年 乾 下 一 札 ありて 是 物 切 ち 下 づ て 應 仁 寺 明 比 寺
世 間 二 月 一 日 辰 午 下 乾 ち ね も 近 ち 物 切 ち 下 づ て 平 止
一 覚 録 あり 中 心 と 云 へ ち 一 行 一 葉

三原

古三原あり

古三原中心より出るや月代いと云あり

めきすいしけいもあり



但し、文明年間の写本と考えられます。

原本は島根県安来市和鋼博物館蔵

令和七年（二〇二五年）七月一日

其阿彌秀文編集